

先端技術導入事例

ICT を活用した効率的な捕獲わなの導入（宇部市）

1 導入の目的・背景

宇部市では猟友会の会員を非常勤嘱託職員の有害鳥獣捕獲員に任命し、有害鳥獣捕獲活動に取り組んでいるが、捕獲員の高齢化が課題となっている。そのため、アニマルセンサー2及びほかパトを導入し、イノシシの効率的な捕獲を目指しています。

○アニマルセンサー2

箱罠の仕掛けをする必要もなく、獲物の大きさを判別して扉を閉めることができるため、繁殖能力が高い成獣のイノシシの捕獲を目的としている。

○ほかパト

わなが作動すると管理者にメールで通知することで、猟友会員の見回りの軽減を目的としている。

2 導入した機器の概要等

導入機器名及び数量	アニマルセンサー2 7基 ほかパト 親機1基 子機7基
設置場所	親機 宇部市東岐波 [東岐波ふれあいセンター] 子機 宇部市東岐波地区 宇部市西岐波地区
対象鳥獣	イノシシ
設置時期	令和2年11月



※R元年度にも 親機1基、子機9基導入済（2地区）



(R1 親機)



(R2 親機)



(アニマルセンサー2及び子機)

3 効果

イノシシ（成獣）76頭（R2.2~R3.2）

導入機器による捕獲 R元 66頭 R2 10頭

○実際に ICT 機器を活用される猟友会員に効果等を実感していただきながら、エリア拡大に向けて検討を進めていく

4 使用者の声

○従来、出勤前に罠の見回りを行っていたが、罠作動時にメール通知があることから、見回り回数が軽減した。また、罠作動時のメール通知において、作動時間が確認できることから、イノシシの活動時間についても把握することが可能になった。

○経験を要する仕掛けの必要もなく、罠が作動した際に通知が届くことから、事前に止め刺し等の道具の準備や人手の確保が可能となり、猟友会員の負担の軽減につながっている。